

1. 計画策定の背景

【目的】

「未来構想 水道ビジョン野田（経営戦略）令和2年度～令和16年度」の基本目標である、「安全」「持続」「強靱」を具現化するために、従前の整備方針を見直し、より効率的な更新を行うため「管路更新計画」を策定しました。

【計画期間】

第1期：令和5（2023）年度から令和24（2042）年度まで
第2期：令和25（2043）年度から令和44（2062）年度まで

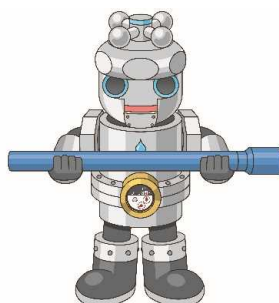
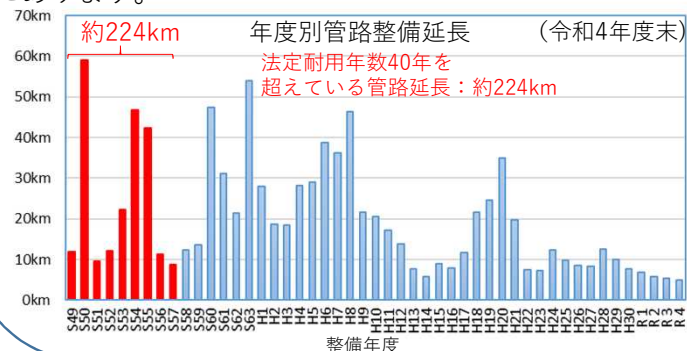


2. 管路の老朽化及び耐震状況

令和4年度末で、法定耐用年数40年を超えている管路は、管路延長約975kmのうち、約224kmで、約23%となっており、今後老朽化は更に進む見込みです。

また、管路延長約975kmのうち、耐震適合管の延長は288km、耐震適合率は約29%となり、低い状況にあります。

種 別	延 長	耐震適合管	耐震適合率
配水管路	969km	283km	29%
導水管路	1.5km	0.9km	60%
送水管路	4.5km	4.5km	100%
管路総延長	975km	288.4km	29%



野田のロボカン

3. 管路更新基準の設定

厚生労働省、他の水道事業者、一般財団法人ダクタイル鉄管協会及び配水管ポリエチレンパイプシステム協会の設定例を参考に野田市独自の管路更新基準を設定しました。これにより、新規に布設するダクタイル鋳鉄管(GX管)、水道配水用ポリエチレン管(HPPE管)の更新基準年数を100年と設定しました。

管 種	法定耐用年数	更新基準年数
ビニル管	40年	40年～50年
ダクタイル鋳鉄管	40年	60年～100年
ポリエチレン管	40年	60年～100年
鋼管	40年	40年～70年

※継手種類により更新基準年数が異なります。

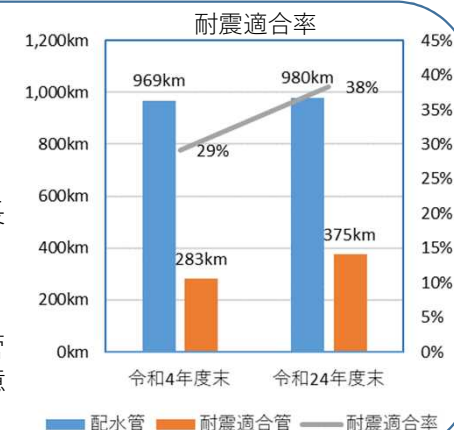
4. 更新計画の方針

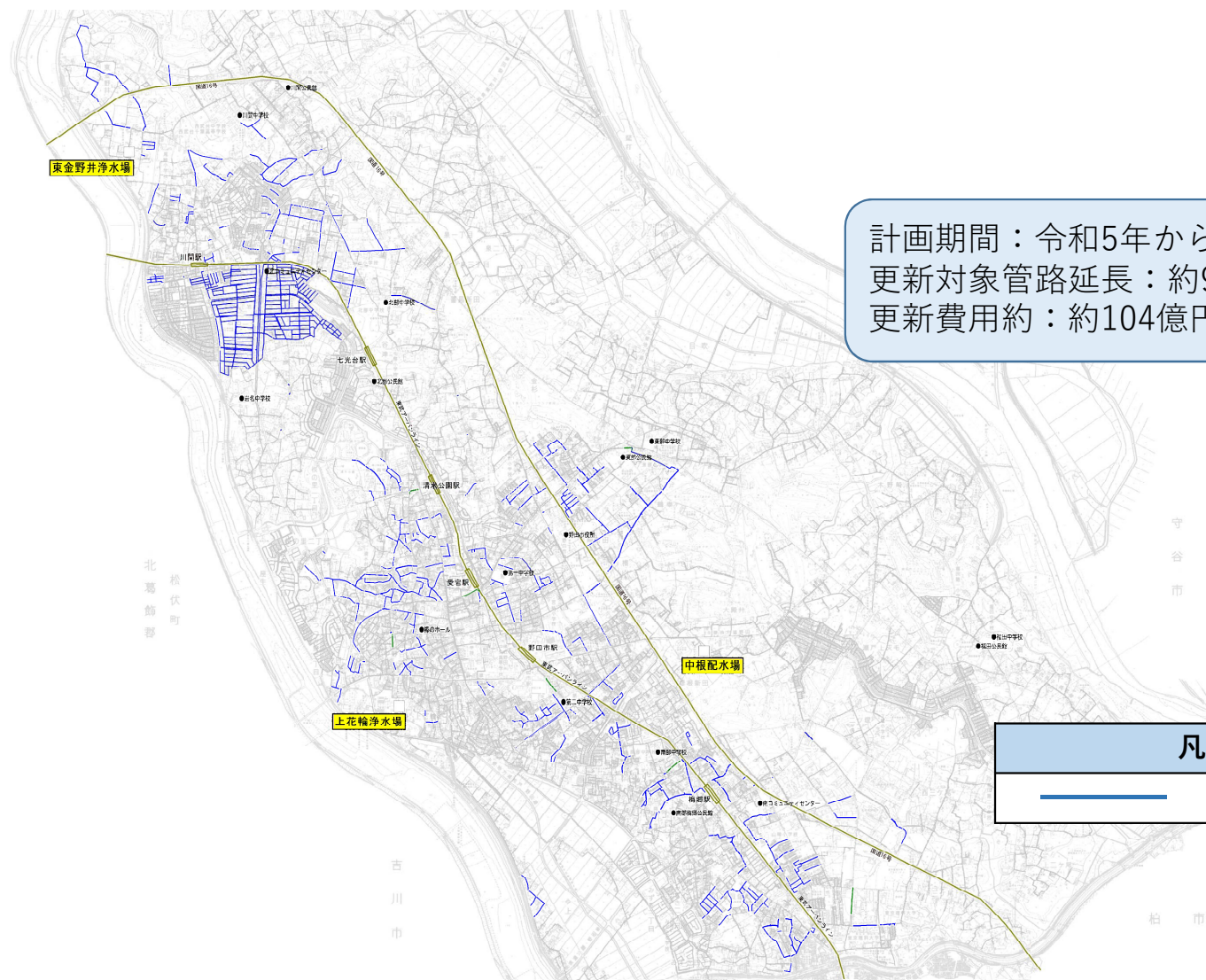
限られた財源のもとで、計画的かつ適正な方法で効率的に更新等を実施するために、漏水や断水が発生すると影響が大きい口径75mm以上の配水管を対象とし、破損や断水リスクを分析し、さらには老朽度、重要度、緊急度などを考慮した結果に基づき、各路線ごとに機能評価をして、更新の優先順位付けを行い、耐震管に更新します。

5. 管路更新計画の概要

第1期は、野田地域の耐用年数を超過した口径75mm以上の塩ビ管を対象に、更新計画を策定しました。これらのほとんどが耐震性を考慮されていない配水管であり、更新することで、耐震対応となります。令和5(2023)年度から令和24(2042)年度までの20年間で、管路更新延長約92キロメートル、更新費用約104億円の整備を見込んでいます。

第2期は、関宿地域を中心に、令和25(2043)年度から令和44(2062)年度までの20年間で、管路更新延長約52キロメートル、更新費用約74億円を見込んでいます。





計画期間：令和5年から令和24年度まで
更新対象管路延長：約92km
更新費用約：約104億円

凡 例	
	更新対象管路